

私たちは、 収納で生活を デザインしてきた。



桑沢デザイン研究所で
デザイン史を教える
著者がつむぐ
「収納」の歴史

『収納され続ける収納 生活者のデザイン史』

著：北田聖子

誰もがあたりまえに行っている行為「収納」。
なぜ収納の話題は尽きないのか。
どうして私たちは物をどうにか収納しようとし続けるのか。

本書では、「住まいにおける収納がどのように語られてきたか」をテーマに、
収納の歴史を3つの章と10のパートにわけて編成しています。
私たちになじみのある現代から、過去にさかのぼるかたちで、時代ごとに
変わっていく収納の意味や、それらがあらわれた文脈を、ことばを手がかり
に取り上げます。

●目次

第一章 二〇〇〇年代

終わりなき暮らしの実験——プロガーの収納
収納の逆説——ミニマリストの収納
日常と地続きの創造のありか——クリエイターの収納
収納を語ることへのアンチテーゼ——ズボラニストの収納

第二章 戦後から九〇年代

ファイリング・システムから問う過去の未来——研究者の収納
子ども部屋という「夢」と手づくり——ティーンズの収納
「収納ベタ」への救いの手——プロの収納

第三章 明治後期から戦中

「収納」を語ることのプロローグ——主婦の収納
理想的な「生活」からみた収納の領分——建築家の収納
繰り返されない日常での収納——国民の収納

・収納にまつわるこぼれ話もコラムに収録・
商品パッケージの悲哀／魅惑のワイヤーネット／廃物利用の収納グッズ
はどこへいった / A4書類がカバンにおさまるわけ

●書誌情報

著：北田聖子
定価：本体¥1,900+税
仕様：四六判変型、並製、
240ページ
ISBN：978-4-8441-3805-1
C0077
発売日：2024年8月3日頃

●著者

北田聖子（きただ・せいこ）
1975年大阪府生まれ。博士（美術）。日本
学術振興会特別研究員（DC2、PD）、関西
の専門学校や大学・大学院での非常勤講師
を経て、2011年に専門学校桑沢デザイン
研究所専任教員着任。同校でデザインに関
わる教養科目群を運営するデザイン学分野
に所属し、デザイン史や、デザインの発想、
提案に必要な文章の読み書きの授業を担
当。個人の研究活動で、デザイン史研究の
射程を拓くべく「規格化・標準化」や「収
納」「片づけ」というテーマに取り組んで
いる。



7/23（火）**〆切**

新刊委託

帳合・貴店名

冊

ご担当者

様

5冊以上のご注文で拡材ご用意いたします。

POP

A4 パネル

A5 パネル

（必要なものに○をつけてください）

※おかけ間違いにご注意ください

雷鳥社 FAX 03-5303-9567

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-4-12
TEL 03-5303-9766 / info@raichosha.co.jp